

大阪泉南アスベスト国賠訴訟

勝利と早期解決めざす 東京スタート集会

ドキュメンタリー映画『命て なんぼなん?』と3分間リレートーク

2006年5月に提訴した泉南アスベスト国賠訴訟は、いよいよ本年8月23日に2陣高裁が結審し、年内に2度目の高裁判決を迎える予定です。

命や健康より産業発展を優先した2011年8月の1陣高裁・三浦判決から丸2年。

泉南アスベスト被害の救済のためにはもちろん、わが国最大の職業病であり公害でもあるアスベスト被害の根絶のため、そして命や健康を大切にする全ての闘いの最前線として、絶対に負けられない裁判です。

そこで、私たちは、皆さまの知恵と力をお借りしながら、大阪だけでなく首都圏を中心に地域に根ざした支援をも拡大し、勝利を獲得するとともに「命あるうちの解決を」求める運動を広めたいと考えております。

当日は、原一男監督のドキュメンタリー映画『命て なんぼなん? - 泉南アスベスト禍を闘う -』（67分版）を上映します。多くの皆さまのご参集をお待ちしております。

8月28日（水）午後6時
四谷 主婦会館プラザエフ
地下大会議室

原一男監督作品

命て
なんぼなん?
泉南アスベスト禍を闘う

大阪・泉南アスベスト国賠訴訟原告団・弁護団・勝たせる会

大阪泉南アスベスト国倍訴訟とは

泉南地域は、約100年にわたる全国一のアスベスト産業の集積地です。パッキン・石綿布などの石綿紡織品の製造を中心に、戦前は戦闘機や軍艦などの軍需産業を、戦後は自動車や造船など高度経済生業期の基幹産業を下支えしてきました。下請けの中小零細・個人事業主が多く、労働環境は劣悪。工場内はもちろん工場の外までが石綿で真っ白。貧しい労働者たちが、厳しい労働環境の中一生懸命働いてきました。その果てにまっていたのが、戦前か

日本のアスベスト被害の原点



屈託なく、石綿製品を手ににっこり笑う石綿労働者たち。この写真のように、石綿の危険性を労働者には知らされませんでした。

ら現在まで広がる、地域ぐるみのアスベスト被害でした。

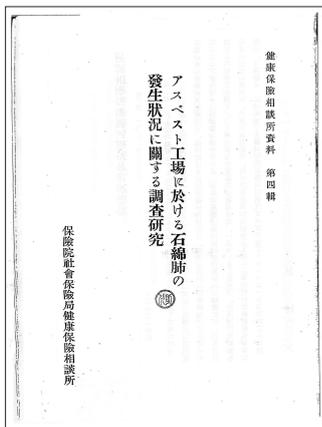
国は知ってた！できた！でも、やらなかった！

国は、実に70年以上も前の1937年から泉南地域を中心とする石綿工場の労働衛生調査（保険院調査）を実施。戦後も繰り返し調査を行い、深刻な被害実態をよく知っていました。しかし、国は、アスベストの経済的有用性を最優先して、その規制や対策を長期間にわたって怠ってきたのです。

この「国の怠慢」こそが、アスベ



マスクもせず素手で石綿の混綿作業



昭和15年に国が発表した泉南の石綿被害の調査報告書

スト被害をこれほどまで拡大した最大の原因です。大阪・泉南アスベスト国賠訴訟は、2006年5月、被害防止のための規制や対策を怠ってきた国の法的責任の明確化と全面的な被害救済を求めて提訴しました。現在、第1陣訴訟は最高裁判所、第2陣訴訟は大阪高等裁判所に係属中です。



石綿工場の屋根は、いつも真っ白。街全体が石綿工場のような状況でした



幼稚園の後ろに見え、石綿工場。周囲には、石綿工場が200もあり、学校の隣にも多数の石綿工場がありました。

